

令和 6 年 6 月 10 日現在

機関番号：32702

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K00799

研究課題名（和文）ロシア語教育の実用性向上のための学習語彙の総合的研究

研究課題名（英文）A Comprehensive Study of Learning Vocabulary to Improve the Practicality of Russian Language Teaching

研究代表者

堤 正典（Tsutsumi, Masanori）

神奈川大学・国際日本学部・教授

研究者番号：80281450

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究課題は、学習者に適切な語彙の適切な用法を学習させるために、ロシア語学習語彙項目の再検討を行うことと、それらに含まれる多義性の分析を行うことを二本の柱とし、日本のロシア語学習者の語彙学習の効率性・実用性の促進を図ることを目的とする。これまで行ってきた習得基準の研究やリア学習の研究もふまえ、また（ロシア語検定試験）のレベル別学習語彙リストのうち入門レベルのものを基盤として研究を進めた。

今回の研究課題においては、研究成果をふまえた教材を作成し、語彙の多義性分析については方法論の検討を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ロシア語は世界的にみても多くの人々が使用する重要な言語である。それをを用いることができる人材は日本においても必要であり、そのような人材を育成するためにロシア語の教育方法・学習方法の検討は課題である。言語学習において語彙学習は基本的な項目の一つであり、それをより実用的なものとするための研究は学術的にも社会的にも重要である。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this research project is to promote the efficiency and practicality of vocabulary learning among Japanese learners of Russian, based on two main objectives: to review the vocabulary items for learning Russian in order to help learners learn the appropriate usage of the appropriate vocabulary, and to analyze the polysemy contained in these items. Based on our previous research on acquisition standards and realia learning, we also used the introductory level vocabulary list of the (TORFL: Test of Russian as a Foreign Language) for each level of study as a basis for our research.

For the current research project, we prepared teaching materials based on the results of our research and studied the methodology of lexical polysemy analysis.

研究分野：言語学、ロシア語学

キーワード：日本におけるロシア語教育 語彙教育 学習語彙項目再検討 語の多義性 多義ネットワーク分析 日  
口語対照 リア学習 習得基準

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

ロシア語は多数の話者を有し、文化・歴史・経済・政治など様々な面からみても世界的に重要な言語である。日本においても、ロシアとの様々な分野における関わりをもつことから、この言語を使用できる人材が絶えず必要である。そのために、ロシア語の教育・学習環境をさらに整えていくことは必要である。

ロシア語の教育・学習のための教材もそのような環境のひとつである。ロシア語に限らず、異言語教育・学習のための教材は、種々の状況の変化に応じて絶えず刷新が必要である。教材において、どのような学習語彙を取り上げるかも極めて重要な問題である。

語彙は言語使用におけるレアリア(言語使用に関わる背景知識)とも深くかわり、また、文法を教育・学習するにも、表現を教育・学習するにも欠くことのできない事項である。学習語彙の研究が必要である。

学習語彙の選定にあたっては、文法・表現など、教材で取り上げる他の事項とも大いに連動して注意を払うことが不可避である。言語を学ぶには、表現の学習とともに、文法も学ばなければならない。ロシア語のように文法において語形変化の豊富な言語の学習では、語形変化は基本的なものから学んでいくという積み上げ式がふさわしい。有用な表現を学ぶにあたって、基本的な語形変化をする語で学ぶということを進めて行かなければならない。教材はそのことを考慮して作成する必要がある。

ロシア語教育・学習が日本で行われるものに想定を限って考察することは可能である。日本でも、多くのロシア語教育・学習が行われている。日本の学習者がロシア語を使用する状況を考えて、そのためのロシア語教育・学習を検討するとすると、学習語彙についても、それに関わる特徴や事情を重要視して選択しなければならない。

## 2. 研究の目的

本研究は、日本のロシア語学習者の語彙学習の効率性・実用性の促進を図ることを目的としている。日本のロシア語学習者がロシア語を用いる状況に適応した表現を学ぶための教材作成を念頭に置いている。

本研究では、特に、初学者が学習すべき語彙を検討の対象とした。語彙は外国語学習における重要な項目であることは間違いない。語彙の学習は多くの時間を費やさなければならない課題であるので、より効率的な学習ができるように配慮しなければならない。また、教材で取り上げる語彙はより有用な表現に用いられる実用的なものでなければならない。

学習語彙リストとして、(ロシア語検定試験 TORFL: Test of Russian as a Foreign Language)のものがあるが、これはロシア語非母語話者がロシアに留学することを想定しており、学習語彙もそのようなことに重きが置かれている。日本のロシア語学習者は必ずしもロシアへの留学を行うわけでもない。日本の学習者がロシア語を使用する様々な実情に適応できる学習語彙の選定が必要である。このことも念頭において研究を進めた。

## 3. 研究の方法

本研究では、初修の学習者を対象とする の入門レベルの語彙を中心的な検討対象として進めていくこととした。このレベルの学習語彙には最重要語と言えるものが多数含まれている。

学習語彙の検討を行うにあたって、ロシア語学習語彙項目の再検討を行うことと、それらに含まれる多義性の分析を行うことを二つの柱とした。

ではロシア語の非母語話者がロシアに留学した際に必要となる語彙が中心となっている。しかし、日本のロシア語学習者にとって必要な語彙はそのようなものばかりではない。学習者は必ずしも学生とは限らないし、日本について表現する際に必要となる語彙などで必要となるものがある。また、逆にロシアのレアリアに特化するような語彙は初修者の学習対象とする必要がない場合もある。二つの主要な課題のうち「学習語彙項目の再検討」では、そのようなこともふまえて検討した。

もう一つの主要課題は「語の多義性の分析」である。 の最重要語においても、学習者が正しく意味用法を理解するためには、それぞれの基礎的な学習語彙においても、より詳細な多義性分析が必要であると考えられる。多義性分析には多義ネットワーク分析の手法を用いる。これは、語の多義性の展開は、その語の中心義からメタファー・メトニミー・シネクドキによって起こっているとするものである。

## 4. 研究成果

堤は論文「語の多義性とコロケーション」(2019年)においてロシア語の語彙の多義性分析期をいくつかの語を例に行いながら、方法論の検討・確認を進めた。

堤と小林の共著論文「レアリア学習から見た外国語学習語彙の研究」(2020年)は、それまでに行ったロシア語教育とレアリアの関係の研究と語彙の多義性分析のそれまでの検討成果をま

とめ、以前の研究から本研究への橋渡しの論考である。

学習語彙の再検討においては、堤が講師を務めて2021年度のNHKラジオで放送されたロシア語講座（『NHKラジオ まいにちロシア語』）は本研究の検討成果を取り入れて作成した（2022年度に若干の改訂がなされ再放送）。初修学習者を対象として、様々な場面でのロシア語表現を基本文法とともに取り上げ、それに必要な語彙の学習を進めている。当然のことであるが、語彙・表現とともに文法も学習しなければならない。ロシア語は語形変化が豊富な言語であり、それを積み上げ式に学んでいく必要がある。文法との兼ね合いも考慮して学習語彙は選択されている。

語の多義性の分析については、分析の方法の検討をいくつかの語彙の分析を行いながら進めた。また、ロシアのアストラハン大学の2021年の論文集「Векторы развития русистики и лингводидактики в контексте современного филологического образования」に掲載された小林の論文「Смысловые различия в употреблении глаголов плыть / плавать в русском и японском языках」では、日本語とロシア語で対応するとみなされる語の用法の違いを取り上げて検討している。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計14件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 堤正典	4. 巻 -
2. 論文標題 語の多義性とコロケーション	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 言語教育におけるコロケーション ロシア語と日本語 報告論集	6. 最初と最後の頁 61-73
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 堤正典、小林潔	4. 巻 No. 42
2. 論文標題 レリアア学習からみた外国語学習語彙の研究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 神奈川大学言語研究	6. 最初と最後の頁 95-103
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 堤正典	4. 巻 第59巻第1号
2. 論文標題 繰り返しで身につける基本表現（第1課～第12課）	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 NHKラジオ まいにちロシア語 2021年4月号	6. 最初と最後の頁 7-76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堤正典	4. 巻 第59巻第2号
2. 論文標題 繰り返しで身につける基本表現（第13課～第24課）	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 NHKラジオ まいにちロシア語 2021年5月号	6. 最初と最後の頁 5-76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堤正典	4. 巻 第59巻第3号
2. 論文標題 繰り返して身につける基本表現（第25課～第36課）	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 NHKラジオ まいにちロシア語 2021年6月号	6. 最初と最後の頁 5-76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堤正典	4. 巻 第59巻第4号
2. 論文標題 繰り返して身につける基本表現（第37課～第48課）	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 NHKラジオ まいにちロシア語 2021年7月号	6. 最初と最後の頁 5-79
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堤正典	4. 巻 第59巻第5号
2. 論文標題 繰り返して身につける基本表現（第49課～第60課）	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 NHKラジオ まいにちロシア語 2021年8月号	6. 最初と最後の頁 5- 80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堤正典	4. 巻 第59巻第6号
2. 論文標題 繰り返して身につける基本表現（第61課～第72課）	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 NHKラジオ まいにちロシア語 2021年9月号	6. 最初と最後の頁 5- 83
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堤正典	4. 巻 第60巻第7号
2. 論文標題 繰り返しで身につける基本表現（第1課～第12課）（改訂）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 NHKラジオ まいにちロシア語 2022年10月号	6. 最初と最後の頁 7-76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堤正典	4. 巻 第60巻第8号
2. 論文標題 繰り返しで身につける基本表現（第13課～第24課）（改訂）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 NHKラジオ まいにちロシア語 2022年11月号	6. 最初と最後の頁 5-76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堤正典	4. 巻 第60巻第9号
2. 論文標題 繰り返しで身につける基本表現（第25課～第36課）（改訂）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 NHKラジオ まいにちロシア語 2022年12月号	6. 最初と最後の頁 5-76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堤正典	4. 巻 第60巻第10号
2. 論文標題 繰り返しで身につける基本表現（第37課～第48課）（改訂）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 NHKラジオ まいにちロシア語 2023年1月号	6. 最初と最後の頁 5-79
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堤 正典	4. 巻 第60巻11号
2. 論文標題 繰り返しで身につける基本表現（第49課～第60課）（改訂）	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 NHKラジオ まいにちロシア語 2023年2月号	6. 最初と最後の頁 5-80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堤正典	4. 巻 第60巻12号
2. 論文標題 繰り返しで身につける基本表現（第61課～第72課）（改訂）	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 NHKラジオ まいにちロシア語 2023年3月号	6. 最初と最後の頁 5-83
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計1件

1. 著者名 小林 潔 (小林 潔) ( . . . )	4. 発行年 2021年
2. 出版社 "	5. 総ページ数 215
3. 書名 // / , . 199-202	

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	小林 潔 (Kobayashi Kiyoshi) (20350374)	神奈川大学・国際日本学部・非常勤講師  (32702)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------